

vol.

114

2023

11/24 発行



いちのへ社協だより

ゆいっこ



## CONTENTS

めおと長寿祝贈呈事業	2～3	全国・県社会福祉大会表彰	10
いちのへオレンジ月間 2023 報告	4～7	社協からのお知らせ	11
できごとフラッシュ	8～9	Topics	12

題号"ゆいっこ"は、古くは若者たちによる共同農作業という素朴な集団の呼称として使われていましたが、この互助精神が福祉の精神そのものと思い、社会福祉協議会広報の題名にしました。



中田 戸田 勇夫様(81歳) タケ様(78歳)



半在家・下小友 東山 禮次郎様(81歳) テルミ様(78歳)



元諏訪野 一ノ澤 忠様(81歳) 慶子様(78歳)



穴久保・女ヶ沢 野中 利夫様(81歳) イマ子様(78歳)



来田 板橋 武雄様(79歳) キヨ子様(78歳)



西法寺 山田 正美様(82歳) トキ様(78歳)

# めおと 長寿祝 2023

一戸町社会福祉協議会では、ご自宅で健康に暮らす78歳以上のご夫婦を対象に、記念品(記念写真又は商品券)を贈呈しています。

今年度は総勢32組のご夫婦に贈呈させていただきました。その中で記念写真撮影をされたご夫婦をご紹介します。

※順不同で掲載させていただきますのでご了承ください。



田中・子守・地切 小野寺 寛様(81歳) 百合子様(78歳)



西法寺 長根 義秋様(81歳) キミ子様(78歳)



中田 八森 喜美雄様(79歳) 和子様(78歳)



岩清水・泉沢 泉久保 成一様(78歳) 國子様(79歳)

# いちのへオレンジ月間2023の取り組み 9月1日 ▶ 9月30日

9月1日

## いちのへオレンジ月間2023スタート

一戸町立図書館では、いちのへオレンジ月間2023開催期間中、認知症に関する本やDVDの展示コーナーの設置や貸し出しを行いました。1か月を通じて、多くの方に「認知症」と「本」に触れていただく機会となりました。



一戸町立図書館「認知症に関する本やDVDの展示」

9月16日

## オレンジカフェさくらの会

認知症の普及啓発活動を行うボランティア団体オレンジカフェさくらの会が主催する認知症カフェが一戸町コミュニティセンターで開催されました。

子どもから高齢者まで誰もが気軽に立ち寄りつながり合うことを目的として開催されており、この日は地域住民や関係機関等28名が参加し軽体操、本の読み聞かせや紹介、手芸等を楽しみました。



シルバーリハビリ体操で体をほぐす参加者。



9月9日

## 認知症見守り声かけ訓練

「もしも大切な人が行方不明になったら…」等の万が一に備えて、関係機関との連携の仕方を学ぶことと日ごろから互いに声をかけ合える地域づくりを進めることを目的として「認知症見守り声かけ訓練」を実施しました。

奥中山地域にある町介護予防拠点施設お達者かあ〜んをメイン会場に、町地域包括ケアシステム検討委員会見守り部会委員やボランティア団体、地域住民等39名が参加。警察や消防による緊急時の対応に関する講義、実際に屋外で声をかけ合う訓練等を行い、認知症のある人もない人も共に暮らすことのできる地域づくりに向けて知識を深めました。



地域で困っている人を見つけたときに勇気をもって声をかけ対応力を身につける訓練。



参加者同士の意見交換。大人も子どもも互いに声をかけ合うことの必要性を求める声が上がられた。



特集

# いちのへオレンジ月間2023を終えて

— 認知症があってもなくても、誰もが共に生きるまちへ —

**オレンジリング**  
認知症サポーター養成講座を受講した方に配布されているオレンジリング。オレンジ色のように温かい心と明るい笑顔で、認知症のある方やそのご家族に寄り添うサポーターの証。

**9月21日は世界アルツハイマーデー**  
1994年、国際アルツハイマー病協会と世界保健機関が9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定。この日を中心に世界各地で認知症の普及啓発活動が行われている。

みなさんは「認知症」について、どんなイメージを持っていますか？  
現在65歳以上の4人に1人が認知症またはその予備軍とされています。  
今や認知症は、誰にでも起こりうる病気となりました。少しでも多くの方に、認知症のことが知り、考える機会を提供したい…そんな思いか

ら、一戸町では9月1日〜30日までの1か月間を「いちのへオレンジ月間2023」と位置づけ、認知症にまつわる様々な事業を実施しました。いつかの自分のために、大切な人のために、地域で暮らすみんなのために今この広報を手にして考えてみませんか？

チームの一員として連携強化  
町立図書館や県立一戸高校も  
も共に活動を行ってきた一戸  
家族は勿論のこと、これまで  
認知症のある方ご本人とその  
からの会のメンバーに加えて、  
従来のオレンジカフェさくら  
の会のメンバーに加えて、

を  
目指すとともに、町内企業  
や医療福祉関係機関等今後さ  
らにチームの輪を広げていく  
こととしています。  
チーム結成にあたり、メン  
バーの「こんなまちをつくり  
たい」という声を活動目標  
として掲げました。

誰かが気軽に集える地域に認  
知症フレンドリーコミュニ  
ティを推進するボランティア  
団体「オレンジカフェさくら  
の会」が設置されてから7年。  
今年6月に成立した認知症基  
本法において国が目指す「共  
生社会の実現」を推進するべ  
く、オレンジカフェさくらの  
会は、7月29日「いちのへチ  
ムオレンジさくらの会」(柏葉  
英美代表)として新たなス  
タートを切りました。



いちのへチームオレンジ  
さくらの会結成!!

認知症フレンドリーコミュニティの推進から  
地域共生社会の実現へ



佐々木院長(右)と柏葉代表(左)



佐々木院長によるピアノ演奏に聞き入る参加者。

- 誰もが共に生きるまちいちのへ  
チームオレンジ  
「(i)アイステートメント」
- 1 私たちは、一人ひとりが、人生の主人公である「私(i)」自身を大切に、夢や希望をもち自分らしく暮らし続けるために、誰もが互いに認め合い生きていきます。
  - 2 私たちは、認知症フレンドリーコミュニティの実現に向け、家族、友人、地域、企業、行政、医療や福祉関係者などがチームとなつてつながりあい、安心して暮らすことのできるまち「いちのへ(i)」を共につくっていきます。
  - 3 私たちは、性別や年齢、人種、病気や障がい、考え方やその違い、多様性を積極的に理解し合い、困ったときは互いに助け合う「愛(i)」の輪を広げていきます。

10月21日に開催されたオレン  
ジカフェさくらの会には、  
一戸病院佐々木由佳院長にご  
参加いただきました。そこ  
は、9月に開催された一戸病  
院まつりにおけるバザーの売  
上金14630円をチームオ  
レンジへの寄付として贈呈さ  
れました。  
町の認知症支援の核となる  
一戸病院からのバックアップ  
に、柏葉代表は「今後の認知症  
支援に役立てたい」と意欲を  
高めました。

関係機関の  
バックアップを糧に

世界アルツハイマーデー 9月21日

お買い物サポーター

ジョイス一戸店の来店客を対象に、買い物中の困り感に対してボランティア団体オレンジカフェさくらの会等がサポートする「お買い物サポーター」を行いました。

世界アルツハイマーデー当日となったこの日は、いちのへオレンジ月間2023のチラシと記念グッズを配布し、来店客一人ひとりへ認知症への理解、関心を呼びかけました。



お買い物サポーターによるチラシと記念グッズ配布。

9月29日

オレンジカフェさくらの会inなかやま

認知症カフェを町内各地域に広める取り組みとして、地域巡回型オレンジカフェさくらの会を奥中山地域にある結カフェを会場に実施しました。

認知症のある方とその家族を含めた地域住民、関係機関等11名が参加し、認知症普及啓発キャラクター口バ隊長を羊毛フェルトで作成するワークショップの他、町立図書館職員による本の読み聞かせも行われました。



羊毛フェルトのワークショップに集中する参加者。

町立図書館職員によるパネルシアター。



9月23日

一戸病院まつり

県立一戸病院(佐々木由佳院長)は、地域に根差した医療機関としての取り組みを進め活性化を図るため「一戸病院まつり」を開催しました。

令和3年度より認知症疾患医療センターの取り組みを開始したこともあり今年度のテーマを認知症の普及啓発と位置づけ、ステージ部門や医療に関する体験ブース等を設置。町内外より250名を上回る来場者で会場は賑わいました。



一戸町認知症ガイドブック普及啓発劇「友蔵物語」の上演。



院内各科体験ブースでは骨密度や血管年齢測定等が行われた。



オレンジカフェさくらの会による認知症カフェ体験ブース。

## 一戸中学校3年生職場体験 じょうもの里こども園園児とのふれあい

いちのへじょうもの里こども園(大和田留史子園長)では、10月30日、31日の2日間、一戸中学校3年生56名の職場体験の受け入れを行いました。

普段接することの少ない中学生の来園に、どのクラスのこども達も大喜びで出迎えました。クラスごとにフルーツバスケットや宝探し、サッカー等のゲームを行い、時間を忘れるほど楽しみました。お別れの時間になると子どもたちは名残惜しい様子で、中学生が見えなくなるまで見送りました。



中学生とハイタッチを交わす園児。

## いつまでもお元気で 佐藤ヨシ様100歳長寿祝贈呈式

10月20日、佐藤ヨシ様(高善寺野田)がご自宅で100歳のお誕生日を迎えられ、一戸町長と本会会長より花束や記念品が贈呈されました。

当日佐藤様は、町外からお越しのご家族に囲まれ、時折笑顔を見せながら昔話に花を咲かせ100歳のお誕生日を迎えられたことを大変喜んでいらっしゃいました。

多年にわたる町への貢献に敬意を表しながら、いつまでもお元気で過ごされることをお祈りいたします。



カメラに笑顔向けられる佐藤様。



1 車いす操作の説明をするこずやサンプルと結愛サービス会社の職員。  
2 手話や筆談の講義を担当した中山の園つつじ大坊英一業務係長。

## 福祉教育を福祉関連法人連携で 町内小学校キャップハンディ体験、 手話講座実施

11月2日、鳥海小学校(吉田幹伸校長)4年生の児童4名を対象に高齢者疑似体験と車いす体験を実施しました。町内で介護保険事業を実施するこずやサンプルと結愛サービス会社の職員が中心になり講師を務め、高齢者へ接する際のポイント等を説明しました。

また11月9日には奥中山小学校(中島敬校長)の4年生16名が、社会福祉法人慈孝会職員の協力による高齢者疑似体験と、岩手県社会福祉事業団「中山の園」職員による手話や筆談体験を行いました。

子どもたちの「思いやりの心」を育むだけでなく、多様な福祉関連法人が一体となって福祉教育を担うことで「福祉のしごと」を知ってもらう機会となりました。

- 1 車いす操作の説明をするこずやサンプルと結愛サービス会社の職員。
- 2 手話や筆談の講義を担当した中山の園つつじ大坊英一業務係長。



1 INDS千葉さんによる災害支援状況報告。  
2 昨年の一戸町災害ボランティアセンター運営に基づき事務処理をオンライン化した訓練。

## 災害に備え連携強化 災害ボランティアセンター設置運営研修実施

9月13日、災害ボランティアセンター設置運営研修(主催:一戸町社会福祉協議会、岩手県社会福祉協議会)が一戸町コミュニティセンターで行われました。

午前の部では、二戸管内4市町村の行政や社会福祉協議会職員、民生委員等30名が集いネットワーク連絡会議を開催。平時や災害時の役割分担や連携協働の在り方について協議を行いました。それを受けて、午後の部には災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施し、発災時の適切な支援や対応について確認しました。

昨年一戸町で発生した大雨災害でも支援に携わった、いわてNPO災害支援ネットワーク(INDS)千葉奈津樹さんより、今年秋田県で発生した大雨災害における災害ボランティアセンターの運営状況の報告も行われ、実体験に基づく具体的な研修訓練となりました。

- 1 INDS千葉さんによる災害支援状況報告。
- 2 昨年の一戸町災害ボランティアセンター運営に基づき事務処理をオンライン化した訓練。

## 海の豊かさに触れた青少年地域活動事業 小鳥谷学童クラブ

小鳥谷学童クラブ(松館聖子所長)は、10月16日に青少年地域活動事業(主催:小鳥谷地区センター)に参加し、青森県八戸市にあるマルヨ水産株式会社の本社工場見学を行いました。実際の製造工程の見学では、初めて見る大きな機械に子どもたちは興味津々で工場職員の説明に耳を傾けていました。

その後は水族館での餌やり体験、水辺の小さな生き物とのふれあい体験等を行い、海を身近に感じる一日となりました。



小鳥谷学童クラブの児童(水族館マリエントにて)。

## 地域でお互いさまの助け合い活動を 訪問助け合いボランティア養成講座開講

10月3日、町ボランティア活動拠点いちボラ+ (西法寺稲荷21-18、旧一戸幼稚園)にて訪問助け合いボランティア養成講座(主催:一戸町地域包括支援センター)を行いました。

町内から5名が受講し、町の高齢者施策やボランティアの実務に関する講義、助け合い体験ゲームを交えたグループワークを行い楽しみながら知識を深めました。

全カリキュラムを受講した方には、町地域包括支援センター和多田克行所長より修了証が手渡され、「今後地域の訪問助け合いボランティア活動の一助となってほしい」と期待の言葉が述べられました。



助け合い体験ゲームを通じて交流を深める参加者。

# 社協からののお知らせ

## 令和6年度地域福祉活動助成金制度のお知らせ

各地域において、世代交流や地域福祉事業を行うために必要な活動費や機器等整備費を助成し地域活動を支援します。

### 【ゆいっこ活動資金助成事業】

- 助成対象：町内の町内会、公民館、ボランティア団体、住民による自主団体、小中学校等
- 助成対象事業：見守りや訪問、生活支援活動、ボランティア活動、奉仕作業、世代交流等
- 助成金額：総事業費の80%以内、年間上限5万円（1団体につき最大3年間助成可能）
- 申請方法：問合せ先窓口へ電話又は来庁後、書類により申請（書類は郵送、または問合せ先HPよりダウンロード可能）
- 申請締切：令和5年2月2日（金） 問い合わせ：一戸町社会福祉協議会（TEL 0195-33-3385）

### 【一戸町社会福祉基金福祉活動及び施設整備助成事業】

- 助成対象：町内の社会福祉法人、公益法人（一般財団法人及び一般社団法人含む）、特定非営利活動法人、住民による自主団体等
- 助成対象事業：福祉施設を拠点とする活動、法人や団体が行う福祉活動、福祉活動に必要な機材等の整備や施設の修繕等
- 助成金額：総事業費の90%以内、上限150万円（令和5年度助成総額は380万円を予定）
- 申請方法：問合せ先窓口へ電話又は来庁後、書類により申請（書類は郵送、または問合せ先HPよりダウンロード可能）
- 申請締切：令和5年2月2日（金） 問い合わせ：一戸町社会福祉基金事務局（一戸町社会福祉協議会内 TEL 0195-33-3385）

## 生活福祉資金教育支援資金のご案内

低所得世帯等を対象に、高校、大学、短大、専門学校への就学に際し必要な経費として、授業料や通学費用等就学に必要な経費を無利子で貸与する制度です。詳しくは下記までお問い合わせください。

資金の種類と内容：右記のとおり

必要書類：借入申請書、住民票、世帯の所得が分かる書類（所得証明書、給与明細書、年金証書等）合格通知書または在学証明書、就学費が分かる書類など

問い合わせ：一戸町社会福祉協議会（TEL 0195-33-3385）



種類	用途内容の例	貸付限度額	据置期間	返済期間	貸付利子
教育支援費	学校教育法に規定する高校、大学、高等専門学校への就学に必要な経費	高校 月額 35,000 円以内	卒業後 6ヶ月以内	20年以内	無利子
		高専 月額 60,000 円以内			
		短大 月額 60,000 円以内			
		大学 月額 65,000 円以内			
就学支度費	学校教育法に規定する高校、大学、高等専門学校への就学に必要な経費	500,000 円以内			

## 毛糸の寄付のお願い

ご自宅に眠っている毛糸はありませんか？ オレンジカフェさくらの会では、認知症のある方のストレス緩和等の効果がある「認知症マフ」の制作を進めるため、たくさんの毛糸を必要としています。使わなくなった毛糸、使いかけの毛糸等ございましたらご寄付をお願いいたします。

- 取扱品目：毛糸（素材、色、太さ、長さ不問）
- 寄付方法：問い合わせ先への持参、郵送
- 問い合わせ：一戸町社会福祉協議会（TEL 0195-33-3385 一戸砂森 93-2）



認知症マフのイメージ

## 表紙の紹介



オレンジカフェさくらの会での羊毛フェルトワークショップの様子。制作のモチーフは、認知症普及家発キャラクター口バ隊長。羊毛の量や差し加減等とても奥深い作業に、時間を忘れる程集中された参加者の皆さん。素敵な作品をカメラに向けて頂きました。（4-7p参照）

# 全国社会福祉大会・岩手県社会福祉大会各種表彰 — 表彰式レポート —

## 全国社会福祉大会

### 全国社会福祉協議会会長表彰 社会福祉協議会優良団体 受賞

11月15日、全国社会福祉大会が開催され、本会が全国社会福祉協議会会長表彰（優良団体）を受賞しました。大会は東京都の浅草公会堂にて開催され、全国各地の福祉団体、関係者等総勢900名程が参加しました。本会を代表して大道正樹会長が出席、表彰状と記念品が授与されました。

これを機に、これまで以上に多職種多機関が連携し合い地域住民に寄り添い、互い助け合う地域福祉の推進に力を入れていきたいと思っております。

[全国社会福祉協議会会長表彰受賞理由] 住み慣れた町で、誰もが可能な限り自分らしく暮らし続けるしくみ“地域包括ケアシステムの構築”を目的として結成された一戸町地域包括ケアシステム検討委員会の運営、住民主体の「一戸町訪問助け合いボランティアすける's」の立ち上げや運営支援、ボランティア活動の普及・促進に向けた取り組み（ボランティア活動拠点の設置運営）等地域住民を主体とした活動を推進した地域づくりを評価されたものです。



全国社会福祉大会 表彰状



全国社会福祉大会表彰の様子

## 岩手県社会福祉大会

11月16日、岩手県民会館で岩手県社会福祉大会が開催され、一戸町からは、表彰対象者のうち1名が会場での授賞式に参加しました。

受賞された皆様のごこれまでの活躍に敬意を表するとともに、今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。おめでとうございます。

### 【表彰対象者（敬称略）】

#### 岩手県社会福祉大会会長表彰

##### ▶ 社会福祉事業功労者

- 女ヶ澤 富士雄 民生委員・児童委員
- 下坪 義勝 民生委員・児童委員
- 大欠 清身 民生委員・児童委員

##### ▶ 永年勤続功労者

- ※ 高山 貞一 (福)一戸町社会福祉協議会 評議員
- 平井 郁子 (福)一戸町社会福祉協議会 評議員
- 遠山 幸恵 (福)岩手県社会福祉事業団 共同生活事業所「二戸」 副所長

※ 高山貞一様は表彰式前にご逝去されました。生前の功績に尊敬と感謝の意を表しますとともに心からご冥福をお祈り申し上げます。

#### 岩手県民生委員児童委員協議会会長表彰

##### ▶ 永年勤続民生委員・児童委員

- 中畷 弘身



岩手県社会福祉大会表彰の様子

## 各種相談日程表

	法律相談	多重債務相談	あすいろ(自立相談支援機関)	ふれあい相談
開催日	12月12日(火) 12月26日(火)	12月19日(火)	月曜日～金曜日 (土日祝祭日・ 年末年始休み)	月曜日～金曜日 (土日祝祭日・ 年末年始休み)
	令和6年1月9日(火) 1月23日(火)	令和6年 1月16日(火)		
	令和6年2月13日(火) 2月27日(火)	令和6年 2月20日(火)		
	令和6年3月12日(火) 3月26日(火)	令和6年 3月19日(火)		
時間	10:00～15:00	10:00～15:00	8:30～17:00	8:30～17:15
場所	二戸消費生活センター (二戸合同庁舎内) TEL 0195-23-5800 ※要予約		OneDishあすいろ TEL 0195-43-3525	一戸町社会福祉協議会 (一戸町総合保健福祉センター内) TEL 0195-33-3385

## 寄付御礼

(令和5年9月～令和5年10月取扱分)

一戸町社会福祉基金への寄付

◆一岩会 金 30,000円 也

頂きましたご寄付は、地域福祉事業の推進のため使用させていただきます。ありがとうございました。

## 災害義援金募集のお知らせ

社会福祉協議会では、被災された方々を支援するための義援金を次の通り受付しております。頂いた義援金は岩手県共同募金や日本赤十字社岩手県支部を通じて全額被災地の方々へ届けられます。皆さまのご協力をお願いいたします。

その他、各種国外義援金、救援金についても受付しております。一戸町社会福祉協議会 (TEL 0195-33-3385) までお問い合わせください。

### ・令和5年7月大雨災害義援金

(受付期間：令和6年3月29日まで)

石川県支部：令和6年1月31日(水)まで

福岡県支部：令和6年3月29日(金)まで



## 読者プレゼント

本誌への感想や当協議会への意見など、アンケートに答えていただいた方の中から抽選で3名の方に一戸町の特産品(1,000円相当)をプレゼントします。

応募を希望される方は、①住所②氏名③年齢④電話番号⑤本誌への感想や当協議会に対する意見などを明記の上、はがきまたはメールにて編集係までお送りください。発表は、発送をもって替えさせていただきます。

### 応募方法

#### ▶ はがき

〒028-5312 一戸町一戸字砂森93-2

一戸町社会福祉協議会「広報ゆいっこ編集係」

#### ▶ メール

ichinohe-shakyo@themis.ocn.ne.jp

## 編集後記

山や木々も色とりどりに衣替えをして、紅葉狩りが楽しい時期になりました。(原稿は10月31日に書いています。)皆さまはどんな秋を過ごされたでしょうか？

私は先日寒さに耐えかねて、こたつとモコモコの靴下を引っ張り出しました。毎年こたつを出す時期とタイヤ交換の時期になると、冬が一步步踏み寄ってくるようで今年もあっという間に過ぎてしまうなあとしみじみ思います。2023年も残りわずかとなりますが、温かくして良いお年をお迎えください。(高橋)

## 社会福祉法人

### 一戸町社会福祉協議会

〒028-5312 一戸町一戸字砂森93-2

(一戸町総合保健福祉センター内)

TEL 0195-33-3385

FAX 0195-33-2737

ホームページ

<https://ichinohe-shakyo.jp/>

